

令和2年度第2回愛西市第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員会  
会議録（概要）

会議名称	愛西市第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員会
開催日時	令和2年11月12日（木） 午後1時30分から午後3時まで
開催場所	愛西市役所北館災害対策本部兼会議室
出席委員	委員長：上 敏明 副委員長：内匠 孝 委員：原田健三、横井三千雄、伊藤弘和、平井正、大原好夫、梅木芳惠、板谷一恵、藤澤恵美、加藤さゆみ、岡本敏秋
欠席委員	安井久 鷺野明美 中村文子
事務局	保険福祉部長 近藤幸敏、保険福祉部参事 兼子利雄 高齢福祉課長 井戸田悦孝 高齢福祉課 八木久美子、藤本貴志、八木麻衣、渡部宏一
協議事項等	議題 （1）第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画骨子案について
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人	0人
会議資料	・次第 ・愛西市第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画骨子案（資料1）

## 審議経過

発言者	内容（概要）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会</li> <li>・委員会の成立の報告</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策による傍聴人の定員縮小の説明</li> <li>・委員長あいさつ</li> </ul>
委員長	<p>それでは、お手元の会議次第により、議事を進行させていただきます。 議題（１）第８期介護保険事業計画・高齢者福祉計画骨子案についてを議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、お手元の「資料１」をご覧ください。 内容につきましては、高齢福祉課の担当から説明します。 (資料１に基づき、第１章から第３章まで、事務局より説明)</p>
委員長	<p>今の段階で何かご質問などはありますか。</p>
副委員長	<p>先ほど、地域共生社会とはということで、「我が事」と参画して、「人と人」と言われましたが、これは、住民がこうやりなさいなのか、市の職員がこれを基にして動きますなのか、教えてください。</p>
事務局	<p>市の職員もそうですが、地域の方々にもご協力いただきながら全体でやっていくという意味です。</p>
副委員長	<p>市が中心となって動かないと、住民から動くことはないでしょう。</p>
事務局	<p>そういったことを踏まえて、今後の第４章からの展開が、市がやっていくべきこと、市民の皆さんにお願いすること、介護保険事業者などにお願いすることが出てきます。</p>
副委員長	<p>市の職員が動いてもらわないと、やはり市民から声を掛けるといっても難しいです。 もう少し市民に目を向けて動いてほしいです。</p>
事務局	<p>今までも至らない部分は、当然あるとは思いますが、８期と言わず、これからは見える形で皆さま方に私どもの行動をお示しする必要があると思っています。 その辺のご支援は頂きたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>11 ページをご覧ください、この年齢の区分のところ、総務省などは３区分で年少人口、生産年齢人口、それから老年人口としていますが、なぜか 15 歳から 39 歳、40 歳から 64 歳と区切ってあります。この区切りはどうしてしなければいけなかったのでしょうか。</p>

	<p>それから 15 ページ、17 ページに、事業対象者という言葉などが出てきます。一般高齢者や事業対象者という言葉も、市民が見たときに「一般高齢者とは何?」、「事業対象者とは何?」となります。これをどこかに用語の説明を載せてもらわないといけない。</p>
事務局	<p>11 ページの人口の区切りについては、アンケート調査の時に少子化になっているのかという部分と、併せて生産労働人口の部分で集計をして、いわゆる肩車型になっているのかも含めて分析しなければいけないところで、細かな区切りとさせていただいています。</p> <p>ご指摘のとおり、第 7 期の時にはそれぞれ語句の説明がありました。用語集については、この冊子の最後に、(3) 用語集、策定最終段階までに掲載予定としています。用語集は、今、必要な語句等を精査した中で、最終的にお示しできるように準備をさせていただきたいと思います。なお、一般高齢者等の一般的には分かりづらい表記については、用語説明を示していきたいと考えています。</p>
委員長	<p>基本的なことを言っておいたほうがよいでしょう。介護に関してはいろいろな用語があって、やはり難しいです。</p> <p>さて、では第 4 章の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは第 4 章の施策の展開について説明させていただきます。</p> <p>(資料 1 に基づき、第 4 章について、事務局より説明)</p>
委員長	<p>愛西市で独自にステッカーを作るというのは、これは国が「やれ」と言ったものですか。</p>
事務局	<p>認知症施策のところ、55 ページにあります高齢者の見守りステッカーの事業などを行う予定です。こちらは、今、清林館高校と共同で取り組んでいて、特に認知症で行方不明になる恐れのある方にステッカーをお渡しして、実際に行方不明になったときに、発見した人が QR コードなどを用いて位置情報を速やかに登録して、ご家族の方などが見つけることができるようにするものです。こういった事業などをこれから行っていこうと思っています。</p>
委員長	<p>いいですね。</p>
委員	<p>(委員持参の資料、大館市の見守りステッカーについての紹介)</p> <p>この 8 期の計画を作るに当たって、言葉の使い方を統一しなければいけないと、第 6 期、第 7 期でずいぶん力を入れて作ったわけですが、それが今回は守られていません。</p> <p>例えばひとり暮らし高齢者あるいはひとり暮らし高齢者世帯を表すのに、「高齢者単身世帯」、「高齢者ひとり暮らし」となっています。それから第 1 号被保険者というのは、「65 歳以上の人」と国がこれだけ言っているのだから、わざわざ括弧して 65 歳以上と書く必要はないわけです。</p>

	<p>それから PDCA や ICT などの語句の説明を丁寧にしていただくとよいと思います。</p> <p>それから徘徊という言葉が今は非常に問題になっていて、徘徊というのは、目的がなく、うろうろしているニュアンスがあります。だけれども、認知症の高齢者はきちんと目的を持って歩くのです。でも帰りが分からなくなって行方不明になるのです。ですから、今は徘徊という言葉よりも、自治体によっては「道に迷う認知症高齢者」というような言葉を使っていますので、徘徊という言葉のところに括弧してでも少し柔らかく入れておいてもらうなど、工夫をしていただきたいと思います。</p> <p>それから 58 ページから 59 ページあたりに、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯と書いてありますが、高齢夫婦世帯が書いていません。この辺りのところを、</p> <p>(1) 生活支援サービスの提供体制の整備、①から⑨までありますけれども、これをきちんと見ていただきたいと思います。</p> <p>それから 59 ページの⑧のごみ出しです。これは地域ケア推進会議でも非常に議論になっています。ごみ出しができなくなると、そこから今度は不衛生になって、野良猫、ネズミといったことになり、近所からも「あの人は駄目な人と、だんだん人間関係が薄れていきます。それで、揚げ句の果てにごみ屋敷になっていくということです。このごみ問題をやはり最優先に挙げていただきたいと思います。</p> <p>それから、地域ケア推進会議では、交通の問題、移動手段も議論としてあるのですが、「我が事」、「丸ごと」です。人のことも、お互いさまと言って手を貸すことを、ごみや交通手段、買い物の付き添いなど、このようなことからコツコツとやっていかないと駄目ではないかと思います。</p> <p>特に愛西市は 4 つの町村が合併しました。旧町村で違うと思います。もう少しきめ細かくしていただきたいと思います。</p> <p>それから 69 ページの感染症、コロナ、これは国が言ったと思いますし、いち早く愛西市も支援していただきましたが、コロナだけではなくて、インフルエンザの予防接種も 65 歳以上の人はやっているわけです。やっていることをきちんと確認し、これからやることもきちんとお伝えいただく、この辺りのことがとても大切ではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>表現などは先ほどもありましたけれども、例えば 56 ページで「検討することとします」とか、「検討します」とかがあります。</p> <p>ごみの問題も、前回と同じ表現がされていたので、「検討します」ということで、その結果としてまた次に出てくるのが 8 期になるだろうということでの、総活の表現があるとよいのではないかというのがありました。</p> <p>あとは、例えば 58 ページの③として、福祉タクシーの利用助成は、現状もしていますということで、計画だと、これからすることや「行います」といったことが多い表現だと思いますが、「しています」という現状と、同</p>

	<p>じく現状として 69 ページの事業所支援というところで「行いました」という過去形で、今後のことで計画としてどうなのだろうというのが少し気になったところです。</p>
事務局	<p>大変貴重な意見をたくさん頂いています。ありがとうございます。      特にごみ出しのことで少し触れさせていただきたいと思います。環境課の場合は市民全般の業務で、たくさんのごみをいかに効率よく回収して処理をするかが大きな目的で、あまり個々の方に対する考え方を持っていないと思います。      実はこの半年少しの間に、高齢者のごみのお困りを確認している状況で、この 8 期の 3 年間で支援体制を構築していこうと思っていますので、この文章は「検討する」ではなくて、実現の方向に向けた文章に変えていきたいと思っています。</p>
委員長	<p>「検討します」というのは、「やりたいな」と、「やるのだ」という決意を言っているようなものだと思いますから、「全然、知らぬ、存ぜぬ」ではないですから、よいことではないですか。</p>
副委員長	<p>今回、コロナで感染症対策整備となっていますので、これはよいですが、認知症サポーターの養成や認知症講演会は、また年 1 回ずつやるのでしょうか。</p>
事務局	<p>認知症講演会は年 1 回開催し、認知症サポーター養成講座については、市では 1 回行いますが、今までの実績の中で、地域による高齢者サロンやボランティア団体からお申し込みがあった場合には、周知をし、地域でお話をさせていただくこともあります。</p>
副委員長	<p>認知症の講演会も、今、集まる機会というのは、密になるのではないですか。過去の動画を流すといったことをやってアピールしてはどうですか。40 代、30 代、20 代の人たちは、学校へ行ったり、会社へ行ったり、仕事をしなければいけません。役所の時間帯はたいてい昼間で皆が働いている昼間に講演会をしても集まりが悪いです。長い計画を立てるのであれば、対象者を若い人に持っていかないと。      YouTube をやってはどうですか。ホームページに貼り付けたり、愛西市で LINE を始めたのであれば、LINE のところに貼り付けてしまえばよいのです。</p>
副委員長	<p>コロナもアフターコロナではなくて絶対にウイズコロナです。どうやってコロナと戦うのか、密にせず、集まりもせず、老人会の集まりはないでしょうか？ 今のところ依頼があるのですか。</p>
事務局	<p>今年度の認知症サポーター養成講座に関しては、ぽつぽつと依頼はあります。</p>

副委員長	<p>一生懸命、市はやっているかもしれないけれども、皆は集まるところには行きたくないと言っています。今は第3波も始まりました。</p> <p>もっとコロナのことも含めて、感染症ということも含めて、もう一回こちら辺を充実させないといけないと思います。</p> <p>それと2つ目です。</p> <p>(副委員長持参の資料、歯周病とからだの病気についての紹介)</p> <p>これは、よくかめるお口でアクティブシニアにということです。これも国から出ている平成27年のデータですが、かなり歯は残ってきました。歯が少ないと低栄養になってしまいます。入れ歯を含めて、よくかめる人は認知症になりにくい、自立度が下がりにくいといわれています。</p> <p>最近、口腔ケアや歯医者へ行けなどと、NHKの番組でオーラルトレーニングという話がありました。口が衰えてしまうと認知度が下がってしまうといった話でした。</p>
委員長	<p>確かに僕たち医者は体のほうを一生懸命見て、口の中を度外視していたわけではありませんが、よくかんでいる人は確かに長生きしています。糖尿病も心臓病も少ない傾向にありますから、この口腔ケアなり歯科的な啓蒙活動も大切だと思います。</p> <p>事務局、説明を続けてください。</p>
事務局	(資料1に基づき、第5章について、事務局より説明)
委員長	<p>人口は減ってくる、高齢化率は増えてくるということで、よろしくない条件ばかりですか。日本で、愛知県の中で、この愛西市は特に悪いわけでもないでしょう？</p>
事務局	<p>愛西市の高齢化率、65歳以上の人口は高いですが、介護認定を受けていらっしゃる方の数は、今のところ他の市町に比べて少ない状態にはなっています。</p> <p>ただ、今後、高齢化率も上がっていきます。介護保険のサービスを使う給付費も毎年増額になっていますので、介護認定をいかに受けなくて済むようにするか、もしくは受けるのを遅くするかというところで、予防に力を入れてと考えています。</p>
委員長	仕方ないので、保険料は上げなければいけないでしょう。
委員	<p>この11ページの人口の推移にこだわります。15から39歳、40から64歳という区分は、どうしてこのようにしたかという説明をしてもらいましたが、1人の生産年齢人口で何人の高齢者を支えるのかといったことを言いたければ、もっとここは工夫する必要があるだろうと思います。</p>
事務局	説明不足の部分がありました。こちらは40から64歳という第2号被保険者の数についても算定する必要がありましたので分けてあります。

委員	人口の推移については、あくまでも総務省が言っているような状態で見なければいけないわけです。そしてその第2号被保険者と第1号被保険者がどのように増えていくかは、また別仕立てで説明しなくてはならないと思います。
委員長	高齢者の人口は増え、介護保険料が上がっていきますと、それは皆さんが受け入れていることですから、仕方ありません。 次に計画の第6章の推進体制の説明をお願いします。
事務局	(資料1に基づき、第6章について、事務局より説明)
委員長	皆さん、何かありますか。
副委員長	先ほどの交付金を狙いに行くのもありますが、国が多分これはコロナで今回もお金がなくなってしまっているはずですから、愛西市が自力で行きましょう。「国が補てんしてくれるのを待とう」、「よい計画を立てて待とう」ではなくて、先ほども「予防します」と言うくらいですから、もっと具体的にどのようなことをやるのか、どのようなことをしていくかということ。愛西市の特性は、田んぼや畑をやっている人はまだ介護になっていない人が多いかもしれませんが、なっていくではないですか。他力本願ではなくて、交付金は後で下りてきたという感じで、充実させようというほうがよいと思います。
事務局	先ほどの交付金ですが、例えば予防や健康づくり、また介護保険の制度に市がどのように取り組んだかの評価をして、それに対してできていれば交付金が増えていくようなことです。交付金は、あくまで付いて回ってくるものであって、いかに介護保険制度に保険者として取り組むかが評価される場ですので、そこを努力していかなければいけないと思っています。
委員長	「ここをこうしたい」と、「検討します」というのは「こうしたい」と、そして「こうします」と、いろいろな決意を述べて、第8期の事業計画を一応これでまとめてくれたようですけれども、皆さん、どうですか。特に反対がなければ、これでよしとしましょう。
各委員	(委員賛同)
事務局	長時間にわたり、大変貴重なご意見をたくさん頂きまして、ありがとうございました。これは完成ではなくて、まだ策定途中ですので、疑問点等がありましたら、事務局にご連絡を頂いて、ご意見等を頂ければ、事務局としても大変ありがたいと思いますので、お願いをしたいと思います。
委員長	他に意見もありませんのでこれで本日の議題を終了いたします。